

ブック村だより

特集

U-MEDIA CENTER GATEWAY 完成

図書館で自分の居場所を見つけよう

本学コレクション紹介(4)	
マルサス『人口論』初版, 1798年	高橋 哲雄(1)
U-MEDIA CENTER GATEWAY 完成	
図書館で自分の居場所を見つけよう	(2)
ぶっくす・なう	(4)
『ゲイトウェイ』	谷岡 一郎
『貧困の克服 アジア発展の鍵は何か』	矢野 恵二
『市場の逆襲	
『パーソナル・コミュニケーションの復権』	南方 建明
『江戸の思考空間』	下山 晃
学生の声	中野 宏美(6)
	青木 哉余(6)
図書館システム 公開検索の手引き	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



本学コレクション紹介(4) マルサス『人口論』初版, 1798年

マルサスの『人口論』初版には著者の名が入っていない。つまり匿名で出版された。

私の友人にいたずら好きの学者がいて、この本の初版本の売り込みにきた大手古書店の社員をからかった。「これって、著者名が脱けてるじゃないか。ニセモノだよ」。社員は青くなったというが、むりもない。

なぜ匿名にしたか。マルサスは当時32歳の英国教会の牧師補で、本の内容が結婚や愛、セックス

の問題をあからさまに論じているので、教区民がショックを受け、昇進に響くのを恐れたからであったらしい。しかし、非難はむしろ急進派から来た。大英図書館にある論敵のコールリッジ本には「ばか」とか「うすのろ」といった書き込みが見られる。著者の素性はすぐバレて、第2版からは実名が入った。昇進は少しおくれたようだ。フランス革命と産業革命のただなか、生きるにはきびしい時代であった。(名誉教授・高橋 哲雄)

特集

U-MEDIA CENTER GATEWAY 完成

図書館で自分の居場所をみつけよう

「学問への入口」「学問への登竜門」の意図を込めて、GATEWAYと名付けられた待望の待望の新図書館が、9月30日オープンしました。

この図書館では、社会科学中心の専門図書の充実だけでなく、学生の知的好奇心を刺激する広い分野にわたる資料を揃え、また、ゆったりとくつろげる空間としてのスペースづくりを行うと共に、電子化の進展に伴う情報環境の変化など多様なニーズに対応する設備も整備されています。

利用者からは雰囲気明るく、また閲覧席が多くなったので、まわりを気にせず本が読めるとか、ちょっとした調べものにハイカウンターがとていいですね。といった様々な声が聞かれます。そこで、人気スポットをいくつか紹介しましょう。

新聞や雑誌で社会の動きを知りたい人なら.....

《2階ブラウジングコーナー》

- ・ブラウジングのスペースも広く、緑もあって、素敵です。
- ・一週間分の新聞が置かれていて、便利です。
(一般登録会員)
- ・居心地がいいです。スポーツ新聞を毎日読みに来ています。
(笑)(1年生)
- ・いろいろな情報誌を一度にチェックできていいです。
(2年生)
- ・情報処理関係の資料をよく利用します。新着本は取り合いです(笑)(2年生)



落ち着いた雰囲気でお本を読みたい人なら.....

《3・5階西側閲覧席》

- ・いつもこの席を利用しています。落ち着いた雰囲気なので集中できます。自分のお城みたい。(4年生)
- ・この席の利用者の顔ぶれが、だいたい決まってきたみたいです。(4年生)



調べものやレポート作成に忙しい人なら.....

《6階参考閲覧室》

- ・書架が低いので、天板が机がわりに利用できるのがいいですね。(教員)
- ・全面開架になったので資料が探しやすくなりました。
(大学院生)
- ・ゆったりとして、利用しやすくなった。(教員)



コンピュータとゆっくり対話したい人なら..... 《6階コンピュータ室》



- ・コンピュータの台数が増え、自由に利用できるのがすごいと思います。(4年生)
- ・午後8時の閉館時まで使えるのがありがたいです。(大学院生)
- ・課題制作やインターネットで大いに利用しています。(3年生)

映画ビデオや音楽CDでくつろぎたい人なら..... 《AVコーナー》

- ・ソファー席でくつろぎながら利用するのが好きです。(2年生)
- ・休み時間に利用しますが、すぐ満席になりますね。いつも競争です。(1年生)
- ・パソコン席で、付属資料のCD-ROMを利用します。借りる前に確認できるので便利です。(4年生)



広い空の下で友人と語り合いたい人なら..... 《6階屋上テラス》



- ・晴れた日は生駒山系が見えて、とてもきれいですね。(2年生)
- ・広くて気持ちいいので、休み時間や気分転換に、ここにきます。夜景もいいですよ。(3年生)
- ・友人との待ち合わせに利用しています。(3年生)

おまけ！(昼下がり、コックリコックリ眠くなった人なら)

..... 《5階集密書架の奥のベンチ》

- ・一眠りしたら、元気でまた勉強にかかってください。(図書館員)



『ゲイトウェイ』

(ハヤカワSF文庫, 1988.5)
フレデリック・ポール 著 矢野 徹 訳

U-Media Center “Gateway” の竣工を記念して、今回はSFの金字塔、『ゲイトウェイ』を紹介しよう。

人類が宇宙に進出し始めた頃、金星の近くに謎の宇宙人（ヒーラー人）が放棄したステーション（ゲイトウェイ）を発見。そこには一人乗りから数人乗りまでの自動運転式の宇宙船がいくつも残されており、それに乗ると大発見（大金持ちになる）の可能性もあるが、3つに1つは戻ってこなかった。黒コゲになって全員死んで戻ってくるか、永遠に戻ってくることはなかったのである。まず、この設定だけでもワクワクさせられる。

と、書くとスペース・オペラ物だと思いかもれないが、実はこの話、「心理ミステリー」とで

も呼ぶべきか。主人公はゲイトウェイ帰りのロビネットとジークフリートという名の心理治療コンピュータ。話はこの二人(?)の会話を中心に進む。ロビネットは何か重要な秘密を心に隠しているのだが、治療コンピュータにも決して打ち明けようとしない。ジークフリートは非情なまでの誘導尋問によって、衝撃的事実をついに「ほじくり」出す。ある、とんでもない秘密が隠されていたのである。

なおゲイトウェイには続きが何冊もあり、第2巻（ゲイトウェイ2）もおもしろいが、3巻以降はおススメしない。ただしこの第1巻を面白くないという人は文明人ではない。



(学長 谷岡 一郎)

『貧困の克服 アジア発展の鍵は何か』

(集英社新書, 2002.1)
アマルティア・セン 著 大石 りら 訳

本書は、1998年度ノーベル経済学賞受賞者のアマルティア・セン教授の講演集である。「危機を超えて - アジアのための発展戦略」、「人権とアジア的価値」、「普遍的価値としての民主主義」、および「なぜ人間の安全保障なのか」の4講演からなり、それぞれ経済、政治、哲学、公共政策の分野をカバーしている。全体として、著者の主張の特徴は一貫して経済発展における個々の人間の発展の重要性を強調し、単なる一人当たり所得の成長の重視を戒めている点にある。

「危機を超えて」において、セン教授は90年代後半のアジア経済危機を分析し、学ぶべき教訓を指摘している。すなわち、経済発展には脆弱性が伴い、危機に際しては権利の剥奪に格差が生じ、

社会が分裂する危険が強い。しかもこれは長期的な分配の公正の問題ではなく、突発的な困窮の問題であり、保護のための安全保障が必要である。ところで、人間の尊厳のためにも、基本的な政治的自由と市民的な権利が保障されねばならず、このことは権威主義的体制でなく民主主義によってのみもたらされる。

結論として、自由こそが発展の重要な手段であると同時に主要な目的であると見なされねばならず、参加型の開かれた政治システムが生み出す政治的インセンティブが決定的に重要である、としている。近代経済学と倫理学の融合を図る碩学の著作への格好の入門書として一読を薦めたい。

(図書館長 矢野 恵二)



『市場の逆襲 - パーソナル・コミュニケーションの復権 - 』

(大修館書店, 2002.7)

日置 弘一郎 著

タイトルの「市場」は、「しじょう」ではなく、「いちば」と読む。「しじょう」は経済学における交換の装置、「いちば」は具体的な交換がなされる場所で、著者は「バザール」とよんでいる。

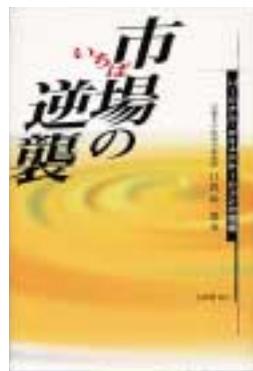
我々は、量販店で膨大な商品の中から自分の欲しい商品をセルフサービスで選択している。本来、商品知識が極めて豊富でなければそうした選択はできないはずだが、ブランドや様々な表示などの「縮約され単純化された」情報に依存することによって負担を軽減しているのである。他方、大量流通の機能は、いかに売れ筋を揃えるかが基本で、消費者への情報提供は製造業者に依存している部分が大きい。商品情報を深く知っているのは製造業者だけで、消費者はもちろん流通業者もあまり

知らないのが大量生産・大量流通の仕組みである。

しかし、小規模生産の担い手は小規模流通が相応しい。たとえば、生鮮食品ではネットを通じて産地から仕入れるパッチャルな卸売市場を立ち上げ、産地から発信される情報を小規模小売店が評価して仕入れ、対面販売で消費者に商品情報を提供していく。そうした小売店が集積した商店街は、何か新しいものを発見できる「バザール」の魅力がある。

流通論や経済学の視点ではなく、著者の専門である「共生経営論」の立場から、小規模小売店とそれらが集積した商店街の復権の方向性を論じた書物として興味深い。

(総合経営学部 教授 南方 建明)



『江戸の思考空間』

(青土社, 1998.12)

タイモン・スクリーチ 著 村山 和裕 訳

「自分の方こそ、おかしいやんか！」とは、案外、良く言われてきたセリフではないだろうか？少なくとも僕に関しては、とくに女の子・ご婦人方と「関わり合いを持つたびに」といってよいくらい、耳慣れたセリフ(時には捨て台詞であった……)である。不思議なもので、自分のおかしさは、他人から言われてはじめて気づく場合が多い。

それはともかく、「自分」という言葉が自分自身をさす一方で、「アンタ、お前」という意味にも使われる日本語の伝統文化というものは、考えてみれば、たいへんにおかしなモノである。「自分」という言葉ひとつをとってみても、日本というのは、じつに「けったい=卦体・奇態」な歴史の詰まった国なのである。

その「けったいな」日本の江戸時代を、最新の図像学やアナル派ばりの心性史研究の手法を駆使して、まったく新しい視点から解剖・解析し、江戸期に生きた人々の日々の

「心の形」まで鮮やかに見せてくれるのが本書である。同じ著者の『大江戸異人往来』(丸善ブックス)・『トレンド英語日本図解辞典』(小学館)などと本書をあわせ読めば、自分のおじいちゃんのおじいちゃんたちが一体どんな気持ちで毎日を通りかかっていたか、たちまち手に取るようにわかってくる。希少な図版も豊富で最高。これだけ絶賛される本を、読まない自分の方こそ、多分、絶対におかしい、のである。

(総合経営学部 助教授 下山 晃)



『メディアセンター』

総合経営学部 経営学科3年
中野 宏美

夏休みが明けるとメディアセンターが完成して、早速中を見に行ってみると、広くて明るく、まず雑誌や新聞も以前の分から置いてあり、整理されていてとても見やすくなっていました。奥の方に行ってみるとビデオなどが見られるようになっていて、今までの図書館よりも席が増えていたし、画面も液晶になって綺麗になっていたの、今まで一度も利用したことは無かったけど、満席で使えないということもあまり無さそうなので、今度利用してみようと思っています。上の階に行くと、今まで閉架図書にあって自由に閲覧できなかった本も他の本と同じように見ることができるようになっていて、「こんな本があったんや」と

友達と一緒に感動していました。でも、前の図書館から移動したばかりなせいか、棚がスカスカだったので、これから本が増えていくのが楽しみになりました。それからパソコンルームがあると聞いて行ってみると、受付のお姉さんがノートパソコンの貸し出しもしていることを教えてくれたので、早速借りてみると、館内の全ての自習テーブルで使うことが出来、レポートを書いたりするのも便利だと思いました。

それからというものはメディアセンターに、試験勉強で遅くまでしたり、空いた時間に雑誌や本を見に来たり、昼寝をしに来たりと大変活用するようになりました。ただ一つ不平があるといえば、校舎から少しばかり離れていることですが、6階にあるテラスも眺めがよくて気持ちがいいのでまだ利用したことのない皆さんも一度足を運んでみるといいと思います。



『今年の夏は……』

総合経営学部 経営学科2年
青木 哉余

メディアセンターが開館してはや1ヵ月が経ちました。皆さんは図書館を利用していますか？私は週3日、アルバイトとして図書館で働いています。このアルバイトを始めて1年経つのですが、いろいろなことがありすぎて“まだ1年かぁ”とってしまいます。その中でも今年の夏の旧館から新館（メディアセンター）への引っ越し作業は特別でした。8月から9月までの間、図書館の職員さんや近鉄物流のアルバイトの人達と作業をしました。

最初はメディアセンターで運ばれてきた本を順番に棚に配架する作業をやっていました。次々に

本が入ったコンテナが運ばれてきて山積みのようにになり、配架しても配架しても終わらない毎日でした。“本当に9月末までに終わるのか？”とって思っていました。

8月の終わりから旧館での作業になりました。旧館にはクーラーがなく、窓を開けてもあまり涼しくないので、とてもしんどい作業でした。水分をとってもすぐ汗となって流れるので、タオルが何枚あっても足りませんでした。

すべての作業が終わった時は“あ～良かった”と思いました。9月26日の完成記念式典を無事にむかえ、30日に皆さんにお披露目で嬉しく思っています。でも、皆さんが楽しい夏休みを過ごしている間、たくさんの方がこのメディアセンター完成に携わっていたことを知っていてほしいです。これからもマナーを守ってどんどん図書館を利用して下さい。

新図書館システム 公開検索の手引き

図書館ホームページのトップメニューより「**所蔵検索**」を選択し、クリックします。



検索語入力欄にカーソルが点滅していますので、そのまま探したい資料のキーワードを入力して下さい。

よみがなでの検索はできません。

入力後、「**検索**」ボタンをクリックして下さい。



該当のタイトルリストが表示されます。青色で表示されたタイトル部分をクリックすると、その資料の情報が表示されます。

次に表示される画面は「**図書書誌情報**」と「**所蔵情報**」の2層構造になっています。



図書館での所在は、画面をスクロールして、「**所蔵情報**」をご覧になって下さい。

資料を探すのに必要な項目は、主に**次の2つ**です。

[配架場所]

資料の置き場所を示しています。

「A1」など、アルファベットで始まる配架場所は、教員の研究図書で、ご利用になれません。

貸出できない資料

教員研究図書・参考図書・指定図書・本学教員著書・視聴覚資料新聞・製本されていない雑誌

[請求記号]

資料の背にはラベルが貼ってあります。

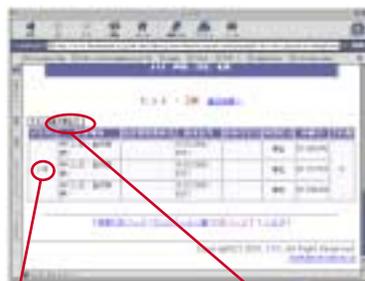
ラベルの1段目に書かれた番号は分類番号といって、分野を示しています。この番号に沿って、資料は並べられています。

2段目に書かれたアルファベットと数字の組み合わせは著者番号といって、ローマ字読みの著者名を記号化しています。

1段目の数字を追って、分野ごとの棚を探しあててから、2段目の著者記号をアルファベット順の、数字順に追ってみて下さい。

833	...分類番号
O78	...著者記号 (アルファベット+数字)

所在情報はプリントアウトできます。



「VOLNO」欄のラジオボタン(の部分)をクリックしてから項目左上の「**請求票出力**」ボタンをクリックすると、情報がプリントアウトされます。

操作方法その他、わからないことは気軽に職員にお尋ね下さい。

図書館インフォメーション

新図書館へようこそ！

新図書館では、3階と6階にカウンターを設置しています。カウンターの利用については、資料の貸出・返却にとまどっている方が多いのではないのでしょうか。本来カウンターは「窓口」の役割を担っています。資料の並び方や検索方法の照会はもちろん、探している情報はどの資料に載っているのか、どのような調べ方が最も近道なのか、といった、文献の紹介や調査のお手伝いを行う所でもあります。参考図書閲覧室のある6階レファレンスカウンターでは、文献調査に関するサポートを集中して行い、本学に所蔵されていない資料については他の機関からの資料の借用や閲覧も受け付けています。是非カウンターを利用し、図書館を有効に活用してみてください。

「Reference」スタッフ大募集！

学生と図書館との、「双方向情報誌」を発行しています。アイデア・編集スタッフを大募集しています。興味のある方は、図書館2F閲覧カウンターまでお気軽に。

開館時間は、月～土曜 9:00～20:00 です。

貸出冊数・期間は次のとおりです。

学 部 生	5冊	2週間(従来通り)
大 学 院 生	30冊	6ヶ月
卒 業 生	5冊	6ヶ月
一般公開利用者	5冊	2週間

利用についての詳細は「利用案内」をご覧ください。

卒業後も図書館を利用できます

卒業後も引き続き図書の閲覧・貸出ができます。利用カードを発行しますので、希望者は身分証明書に該当するもの(免許証、保険証など)および写真(3×4cm)を持参の上、図書館2Fメインカウンターまで申し出て下さい。

開 館 案 内

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 ₃₀	24 ₃₁	25	26	27	28	29

は休館日です。

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。

開館時間は平常通り(月～土 9:00～20:00)です。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第21号 平成15年1月31日 発行 大阪商業大学図書館
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話(06)6781-5280 FAX(06)6781-0089
e-mail: lib@daishodai.ac.jp ホームページアドレス: http://www.lib.daishodai.ac.jp